中日ニュース
シネスコ版

No. 580

40. 2. 26

特集

交通戦争 その一

事故！ この現実

交通戦争、まさにそれは地獄である。市民の生活を、命をおびやかし、さまざまな苦しみや悲しみをもたらしている。

一九六四年は史上最悪の年であった。交通事故による死者は一三、三〇一人、傷ついた者三九三、一九〇人と過去の最高を記録した。国民の八千人に一人は死に、二〇〇人に一人が傷ついている。これは容易ならぬことである。

このまま進めば十年後には交通戦争の犠牲者は一千万を越すであろうといわれているにもかかわらず事故にたいする一般の声はひくい。事故はますます増えるばかり——。

二月十三日夕刻六時五分深川で六才になる子どもが自宅付近で乗用車にはねられた。この日一〇三番目の事故である。

ただちに救急病院に運ばれた。頭部打撲で危険な状態である。両親が青白なおももちでかけつけ、加害者も不安なおももちで謝罪に現われた。

自家用車の主はある運送会社の重役、この日から〝加害者〟といういまわしい汚名がつけられたのだ。

子どもの両親の怒りの目、ベッドの上ではげしくあえぐ子ども、顔を覆う加害者、そこには事故のもつ悲惨な縮図をみることができる。

この下町の小さな外科病院に交通事故患者が十一人も収容されている。それは全入院患者の三分の一にあたるなんという現実だろうか。——いま交通戦争は抜きさしならぬ段階にきている。これからも自動車はますます危険な乗物であることを続けるであろう——

630

制作・配給
中日新聞　東京中日新聞
北陸中日新聞　中日映画社